

シナリオ1

議論のポイントを押さえての意見

【平時から備えておくこと】

- ・スリッパか靴かを寝床に置いておく必要がある。自分は枕元に服と貴重品、携帯電話を置いている。
- ・お母さんに関しては寝たきりなので要援護者の登録をしておくべき。これがあれば、ゆかりさんも誰に声をかければ良いか分かる。また、平素からの近所付き合いも大切である。

【地震直後の状況予測】

- ・最初はパニックになって何も出来ないと思う。
- ・まわりの家も被災しているのでお母さんの助けもすぐには見つからない。
- ・ゆかりは、何とか家族に連絡したいと思うだろうが、携帯が通じない状態では、しばらくは家族と連絡出来ない状況が続くだろう。

【行動時に気をつけること】

- ・連絡手段については、テレビ報道等によると、しばらくしたら携帯電話が使えるようになるみたいなので、災害直後は通じなくても携帯電話はずっともっておいたほうが良い。
また、災害時のアプリもあるので家族と後々連絡を取れると思う。
- ・最後に家を出て行くときは、必ずブレーカーを落とすこと。

【どのように行動するべきか】

- ・まずは、とにかく落ち着いてまわりを見回し、火の気がないかを確認する。
- ・ゆかり自身もけがしているので、まずは自分の傷の手当てをする。そして、スリッパか靴を履いてから行動する。
- ・近所の方も、まず家の外に避難すると思うので、余力のありそうな方に助けを求める。
- ・ゆかり一人でも寝たきりのお母さんを外に避難させるべきである。そして毛布などをかけて暖をとりながら助けを待つ。
- ・経験はないが寝たきりの人を抱えるのはかなり重たいと思う。一人では難しい。
- ・毛布でくるんで引っ張る方法もある。
- ・助けが来ないで外へお母さんを連れ出すことが出来ない場合は、余震も考えられるので家の少しでも安全な場所、例えばトイレへお母さんを一時避難させることも考えられる。

【地域における実情】

- ・当地域では震度5以上の地震が発生するとまず、公民館へ各自治会長と消防分団長が集合して次の対策を考えることとしている。
- ・消防団車両の巡回によって、地域の状況確認を行う。
- ・市の指定避難所へ行くまでに地域の住民は一時避難場所である公園に行く。
- ・一時避難場所は安否確認の場であり、初期情報を得ることもできる。
- ・一時避難場所は、だいたい10分ぐらいで行けるような近い場所にある。
- ・一時避難場所から避難所へは集団で避難することとなる。

今後のシナリオ展開

- ① まず落ち着いて、冷静になる。
 - ② ゆかり本人の足の応急手当てを行う。靴下、タオルなどで足を保護する。
 - ③ 火事などガス・電気を止め2次被害の防止を行う。
 - ④ つた子の助けはなかなか来ないかもしれないので、一時避難場所へ助けを求めて行く。
 - ⑤ 一時避難場所から拠点避難所へ集団で避難する。
- 以上を基に続編を作成。

検討課題

- ① 災害時要援護者
被災時においては、家族だけでは避難弱者の安全確保は難しい。また、一人暮らしの高齢者世帯も多い。このような避難弱者への対策をどう進めていくべきか。
- ② 一時避難所の周知
多くの住民は小学校などが避難所となることは知っているが、これら避難所は受け入れ準備ができるまで時間がかかる。災害（特に地震）発生時は、各地域が指定した公園などの一時避難所へ行くことが重要であるが、一時避難所のことは知らない住民が多いのではないか。
- ③ 家族との連絡
震災直後は、固定電話・携帯電話ともにつながらない場合が多いが、離れ離れの状態となった家族との連絡はどうすればよいか。

シナリオ2

議論のポイントを押さえての意見

【避難時に気をつけること】

- ・廊下のガラスが割れていたり、ロッカーなどが倒れている可能性があるため、生徒を

教室から連れ出す前に避難ルートを確認する必要がある。

- ・一度に皆が階段に行くと危険であるため、先導する先生方の連携・調整が重要である。
- ・座布団があれば、頭を保護して避難する。なければ何も持たずに避難させること。

【屋外に出るからの留意事項】

- ・子どもたちを校庭に避難させてから、点呼を取って、けが人があれば学校の救護班、保健の担当の方が居られると思うのでこの方に応急手当を受けさせることが必要。
- ・非常に寒い時期であるので、安全を確認できれば、体育館への移動を考える。
- ・父兄への緊急連絡一斉メールが使用出来ない時は、親が来るまでは、学校が責任をもって子供を保護する。

【平時から備えておくこと】

- ・学校の避難訓練の回数を増やし、子供には事前に知らせないで突然行う訓練も必要。

【保育所・学校での決め事】

- ・保育園では月に1回避難訓練を行っており、各職員で役割分担を決めている。
- ・子供を誘導する職員がいれば、火災があれば消火器で消火する職員、救護の職員が決まっており訓練では各自の分担を行っている。
- ・災害時には落ち着いて、役割分担の活動を行い、外に避難した後は点呼をとり責任者へ報告することとしている。
- ・小学校も同じように運動場に集まり、点呼を取って親が迎えに来たら引き渡すことになる。引渡し時には、先生が名簿をチェックして引渡しを行う。
- ・災害時の避難所は学校なので、帰れる状況であれば引き渡すこととなる。

今後のシナリオ展開

- ① 教室から運動場までの避難路の安全確認を行う。
- ② 安全な避難路を確保して避難行動をおこし運動場へ避難する。
- ③ 運動場に出たら、点呼をとり、怪我の手当てを行う。

以上を基に続編を作成。

検 討 課 題

- ① 大けがが発生した場合
今回のシナリオでは、ケガをした児童の数も少なく程度も軽かったが、もし、もっと多数の児童が大きなケガをした場合、どのような対応をとればよいか。
- ② 体育館が使用不能の場合
体育館が天井の落下などで使用できない場合、どのような対応をとればよいか。

シナリオ3

議論のポイントを踏まえての意見

【平時から備えておくこと】

- ・ 事務所でも避難訓練や避難経路の確認をよくしておくことが必要。
- ・ 地震時、事務所の中では、事務机や書類等が散らかってしまうのはしょうがないが、これ以上被害が広がらないように措置（複写機等の固定）をする。
- ・ 災害時は、社員が何らかの役割分担が必要と思われるので、事前に決めておく。
- ・ 勤務先の事務所や事業所近くの避難所は事前に確認しておくこと。
- ・ 災害時、社員が帰宅困難となった場合の取扱いを決めておく。

【行動時に気をつけること】

- ・ 事務所が建物の5階にあるので、避難する際は、階段が使用できるか確認が必要。
- ・ 屋外に避難する場合、何か羽織れるものを持っていったほうが良い。
- ・ 社員の安全確認、外に出かけている社員の安全確認や昼食、休憩で外部にでかけてしまっている社員の安全確認などどう考えるか。また、各企業と協力して対策を検討すべき。
- ・ 雑居ビルなので、余震で、ビルがどうなるかわからない。早目に建物外に避難すべきである。

【どのように行動すべきか】

- ・ 職場の中ではとにかく、部下の身の安全を確認する。
- ・ 家族の安否も気になるから、何とかして連絡をとろうとするのでは。
- ・ この後の行動として、部下の家族の安否確認などのため、帰宅を促し、一度帰宅させるという考えもある。
- ・ 帰宅困難者となるものは、近くの避難所へ避難する。
- ・ 女性社員がいる場合は、声をかけたり、家まで送る必要がある。
- ・ 上司としては、帰宅困難者となっている部下を置いて帰れない。
(部下も子供でないので、何らかの行動が可能では)

今後のシナリオ展開

- ① 部下等、社員の安否確認
- ② ビルから避難するため避難経路の安全確認→安全確保→ビル外へ避難
- ③ 帰宅を促すことについて、上司に進言する。
- ④ 弱い立場の女性や負傷者の避難指示や避難介助。

以上を基にして続編を作成。

検 討 課 題

① 会社での避難対策

東京では、大地震の時は、無理して動かず、会社にいることになっているが、自分の会社では、どう対応すべきか。

会社員を守るため、各支店、営業所ごとの地震避難計画を作成すべきでないか。避難の際は、エレベーターが止まっている場合や閉じこまれる危険性があるので、避難は、階段を使用し避難することが、社員に知らされているか。

② 会社近くの避難所や避難経路の確認

会社近くの避難所を知っているか、避難所までの安全な経路の確認や避難する際は、集団で行動するなど取り決めが必要でないか。

③ 雑居ビル内での組織づくり

雑居ビル内の事業者が「オフィス町内会」のような組織づくりを行い、連携した活動も必要でないか。

シナリオ4

会議での議論のポイントを踏まえての意見

【平時から備えておくこと】

- ・スーパーも災害時に備え、災害時対応マニュアルや従業員などのそれぞれの役割分担マニュアルを作成しておくべき。
- ・救急箱は日頃から備えておく必要がある。
- ・家族との連絡方法や災害時での避難場所の確認をしておく必要がある。
- ・店長は、日頃から従業員やパートの家庭事情も把握しておくべきでないか。

【地震直後の状況予測】

- ・店内のお客様は、地震時、危険なスーパーの中から駐車場などの安全な場所に早く避難して頂く必要がある。
- ・従業員、パート問わず、お客様に安全確認や避難誘導を行い、負傷者などの対応の必要がある。

【行動時に気をつけること】

《スーパー内》

- ・店の中は商品が散乱しお客はパニックになっている状況下で、私は、パートなので帰りますというのは難しい。

- ・パートの立場なら普段正規の従業員より軽く扱われているという思いがあるので、このような時は、自分達に大きな責任は無いと思われる方が多い。

《帰宅途中》

- ・一人でも助けに行くべきではなかったか、無理なら、まわりに誰かいると思われるので、大声を出して助けを呼ぶべきでないか。

【どのように行動すべきか】

《スーパー内》

- ・パートであると言っても、従業員であるので店長の頼みを聞いて、ある程度落ち着いたら自分の意見を言って帰らせてもらう。勝手に帰っては、自分の安否を知らせる事もできない。
- ・子供が家に居れば早く帰りたいと思うかも知れないが、今回は大学生ということもあり、神戸に出かけている状況で、家には犬が居るが飼い主にとっては大事かもしれないが、お客さんにとっては、従業員もパートも同じと思う。

《帰宅途中》

- ・一人でも助けに行くべきではないか。
- ・帰宅途中に倒壊家屋に閉じ込められた人がいた場合、女性一人では何も出来ないため、大きな声を出し、周りの人に助けを求めてみるべき。
- ・車が通れるような道路に出れば、地震時、車を止めて外にいる人がいるのでないか？
そういう人に声をかけ、助けを求めてみるべき。
- ・検討会議に参加している人は、各団体のリーダー的な人たちであるが、主婦の立場では考え、思いも違ってくる。
- ・人命に関わることなので、2、3名の助けを連れて現場に必ず戻ってくるべき。

【地域における実情】

- ・自宅に帰って、不在となる場合、地域内で安否確認のため、玄関に連絡先などがわかる安否カードを貼り付けることも考える必要がある。
- ・普段から応急手当の訓練と救急箱を備えているか確認し準備しておくべき。
- ・余震に備える
- ・帰宅途中、1人で救助要請をされてもどうすることもできない。自治会の避難所や市の避難所に行けば多くの人がいるので、助けが必要なら避難所に行くべきと伝えるべきである。
- ・昼間、住宅は、留守が多く人通りも少ない。

今後のシナリオ展開

- ① パートも店長の意見を聞いて、目処がついてから帰る。

- ② 玄関に安否の分かる表示をする。
- ③ この後、京子さんの行動は、シナリオ1と同様に一時避難所へ避難して、指定の避難所に行く。
- 以上を基にして続編を作成。

検 討 課 題

① スーパーでの安全対策

従業員へ避難訓練の実施や災害時の役割分担、ルールづくりを作成すべきでないか。
店舗内の地震対策、避難路確保を常に考えておくべきでないか。
救急箱などを余分に備えておくべきでないか。
店長の指導力が必要でないか。
従業員、パートの家族事情も普段から把握し、災害時には配慮も必要でないか。

② 帰宅途中、救助を求められたら

自分一人ではどうすることもできない、まわりの人に声をかけ救助を求めているかどうか。
自宅に家族がいる場合、家族も心配であり、とりあえず自宅に帰り引き返すべきか。

シナリオ5

議論のポイントを押さえての意見

【平時から備えておくこと】

- ・ 出掛けている際、災害時では、情報を取るところが限られているため、災害情報を入手する方法など知っておくべきである。
- ・ 家族との連絡方法を日頃から確認しておくべきである。

【避難所開設や情報のとり方での注意事項】

- ・ 神戸で、〇〇小学校が避難所といわれても、わからない。どのようにしていけばいいか聞く必要がある。
- ・ 駅やデパートを開放して、誘導するものがあると思う。
(JRでは、地震時などの災害時は、利用者は、駅構内から出されてしまう？ 理由：利用者が、ホームから線路に降りられたりすると、電車が再運転時に、路線の安全確認に時間を要するため。)
- ・ 帰宅困難者となった場合、地域の避難所に行く必要がある。
- ・ 災害時は、いつ帰れるか不明であり、また、帰宅困難者が殺到するため、コンビニ等で食糧を確保する。
- ・ 情報、携帯電池の充電先などホテル、デパート、コンビニ等を利用するのもひとつの手

段。

【映画館内での注意事項】

- ・映画館から出ていく時、暗い中、出口に人がたくさん集まるので慌てず、落ち着いて行動する。

【帰宅困難者の注意事項】

- ・家族との安否確認システムの運用方法の検討の必要がある。
- ・姫路駅や神戸、大阪の主要駅での帰宅困難者収容施設の計画が急務である。
- ・災害時は、携帯電話が繋がりにくくなり、家族への安否確認が出来なくなる。
- ・災害時は、公衆電話が繋がりがやすいが、設置台数が、かなり減っている。
- ・コンビニ等で、自分たちの食糧を確保する必要がある。

今後のシナリオ展開

- ・災害時伝言ダイヤルを活用する。

今後のシミュレーション展開

- ① 帰宅困難者用避難所が開設されるのでそこへ避難する。

シナリオ6

議論のポイントを踏まえての意見

【平時から備えておくこと】

- ・学校は、児童の安全確保を行う上で、災害時のマニュアルを策定しておき、役割分担や安全な避難行動、児童の引渡し方法など普段から訓練を実施し、適切な行動が迅速に行えるようにしておくべき。
- ・体育館が避難所の中心となるので、体育館の耐震性や天井等の二次部材の安全対策を行っておく必要がある。

【校庭避難時の注意事項】

- ・寒い時期や雨天の場合は、長時間、児童を校庭に待機させるための対策を事前に検討しておく必要がある。
- ・低学年の児童は、高学年の児童が引率するなど、不安をいだかせないよう集団で行動する必要がある。
- ・低学年の児童は、寒い時期の屋外避難は、早目に安全な屋内へ避難させる必要がある。

【児童の保護者への引渡し】

- ・保護者が学校に来るまで待機させ、直接保護者に引き渡す必要がある。
- ・保護者と連絡がとれない場合は、児童の安全確保のため、そのまま学校で待機させておく必要がある。
- ・保護者にメールで一斉に連絡するような方法も事前に検討する必要がある。

【避難所の運用】

- ・災害発生の初動期は、避難所運営委員会も設置されていない場合は、校長先生又は教頭先生が各先生に具体的な指示を行い避難者の受入に協力すべきである。
- ・学校の避難収容能力は十分か、避難者の避難状況により、学校に収容しきれない場合は、あふれた人は、どうするか事前に決めておく必要がある。

今後のシナリオ展開

- ① 児童の不安を少しでも解消するために状況をわかりやすく説明する。
- ② 体育館等の避難所の被害状況を調べ、避難所開設準備を行う。
- ③ 余震に備える。
- ④ 市役所等に現況を報告する。
- ⑤ 小学校に食糧はあるか。

シナリオ7

議論のポイントを押さえての意見

【平時から備えておくこと】

- ・避難所を開設した場合、自主防災組織は役割分担やルールを事前に決めておく必要がある。
- ・災害に備え、避難所開設の訓練などを実施する必要がある。
- ・自宅から避難する際、一時避難所へ行き、自宅が倒壊しているなどの場合は、学校などの拠点避難所へ行くという流れが、事前に地域住民に訓練を通じ周知すべきである。
- ・避難所運営訓練を通じ、同じ役割でも、複数名で行うなど、誰かが欠けても避難所運営が行えるように組織づくりをする必要がある。

【避難所の事前確認】

- ・避難所として、体育館の利用が考えられるので、天井の落下防止の対策をすべきである。
- ・避難所が災害の影響で、ガラス飛散や内装等が壊れて、使用できる状態か確認が必要である。

【避難所開設にあたっての注意事項】

- ・災害はいつ起こるかわからない、事前に役割を決めている人が避難所に到達できるとは限らない。
- ・避難所のガキは、自治会長や市の職員は事前にその所在を確認しておくべき。
- ・避難スペースを事前に区画割りしておくべき。
- ・受付は避難をした方の受付なのでいくら家族でも、まだ、来ていない者の名前は書くべきでない、娘の名前を記入することは、かえって混乱を招く恐れがある。

【今後のシナリオ展開】

- ・自宅にすぐにもどるのは危ない。安全が確認できるまで、避難所にとどまるべきである。
- ・避難所運営を行う人の応援が必要である。

シナリオ8・9

【議論のポイントを踏まえての意見】

【平時から備えておくこと】

- ・避難所ルールをしっかりと決めておかないといけないのではないか。
- ・避難の際は、2～3日分の食糧を個人で持参するように、訓練や広報などを通じ周知が必要でないか。

【避難所運営にあたっての注意事項】

- ・学校の教職員にも避難所運営を手伝ってもらわないと、避難所運営は難しい。
- ・限りある物資は、取り合いになるかもしれない。配布ルールは、避難者に理解してもらって、急遽決める必要がある。
- ・犬が家族という人もいるが、避難所では犬が嫌いな人やアレルギーの人もいるので、取り扱いが難しい。
- ・避難所の運営について、100人もの避難者がいる場合であれば、掲示板等で避難所の情報提供をする必要がある。
- ・この段階になると、家で避難している人は、避難所に食糧などの物資だけ取りに来る人がいる。
- ・避難場所の確保のために、地域や学校のテントを活用する必要もある。
- ・保健室は救護室に活用し、関係のない人は入らないようにしなければならない。

【児童・生徒への注意事項】

- ・学校で引渡し訓練をしたが、学校にいる子供については引渡しができるまで、学校が責

任をもって対応するが、いつまで続けることが可能か問題がある。

- ・子どもを待機させておく場所は、体育館が完全とは言えないので、教室を活用することも検討する必要がある。
- ・状況により、児童全員を集める必要があれば集めるが、1日経過している状況であれば教室にいることが考えられる。
- ・他の地域の訓練で聞いたことがあるが、中学生に避難所運営を手伝ってもらおうことにしていた。

その他注意事項

- ・災害時にペットを連れて避難所に避難する場合は、最低限のしつけをしておく必要がある。
- ・ペットは、運動場など別に場所を設ける。
- ・トイレの問題も出てくると考えられるが、近くに池などがあれば、トイレの排水用の水として活用できる。
- ・暖をとるため、ストーブがなくても場所によっては、薪を取ってきて焚き火ができる。
- ・災害の大きさによるが、緊急の場合はコンビニやスーパー等に自主防災会へ優先的に提供してもらうよう、事前に取り決めなど調整が必要なのでないか。
- ・けが人は、病院でないと対応は難しい。
- ・今回のシミュレーションで思ったことは、やはり非常用の持ち出し品を準備しておく必要を感じた。避難したら何でも準備してもらえと思われたら困る。
- ・避難所生活に必要な食糧や毛布などの物資について、備蓄場所から避難所までの運搬が可能（道路の状態、運搬のための人員確保）か事前に検討しておくべき。
- ・ペットの問題について、避難所でのペットの扱いも事前に決めていたほうがよい。中には、動物が苦手な人がいることも前提として検討すべき。
- ・避難所のプライバシー問題について、睡眠時には家族と家族の間に衝立を設置するなど、できる限りプライバシーを確保するための方策を考えておくべき。
- ・シナリオにあるように、口頭だけの情報では不十分。掲示板やチラシの活用方法も事前に検討しておきたい。また、情報交換のための場所を準備しておくなどの対応も考えられる。

今後のシナリオ展開

- ・避難所のルールづくりが必要。
- ・避難所運営は、避難者にも協力してもらう。
- ・児童については、保護者への引渡しができるまで、学校が責任を持って預かる。
- ・情報については、壁新聞などで掲示し、いつでも誰でも読めるようにすべき。
- ・要援護者の支援については、民生委員や支援員で対応が考えられるが、避難者同士でも配慮すべき。
- ・避難所以外の住民への情報提供は、電気が使えれば町内放送が可能になる。

- ・避難者が、避難所でじっとしていれば、ストレスやエコノミー症候群などの症状が発生するので、時間を決め散歩するなど、避難所運営の参加により身体を動かすようにすべきである。